

1年 算数評価基準
領域 (A)

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
なかまあつめ	図いろいろな観点や条件に応じて集合をつくらうとしている。 図1対1対応のよさに気づき、2つの集合の要素の個数を比べようとしている。	図ものの集まりを観点や条件を設けた集合としてとらえている。 図1対1対応の操作を通して、2つの集合の要素の個数の比べ方を考えている。	図観点や条件に応じて集合をつくらうことができる。 図集合の要素の個数の直接、間接比較ができる。	図観点や条件を決めることによって集合がつけられることを理解している。 図1対1対応によって集合の要素の個数を比較できることを理解している。
かずのなまえ	図具体物の個数を数えるのに数を用いるよさに気づき、数えようとしている。 図具体物の個数を数えるのに数を用いるよさに気づき、数えようとしている。 図身の回りの具体物の個数を数えようとしている。	図集合の要素の全体数を1対1対応を用いて考えている。	図1～5の個数を数えることができる。 図1～5の数字を読んだり、書いたりすることができる。 図6～10の個数を数えることができる。 図6～10の数字を読んだり、書いたりすることができる。 図数図やブロックなどから数の多少や大小を比較することができる。	図半具体物、数図などを用いた数の表し方を理解している。 図集合の要素の全体数は要素と数詞の1対1対応を用いてとらえられることを理解している。 図半具体物、数図などを用いた数の表し方を理解している。 図数の大小に基づいて、数の系列がとらえられることを理解している。 図具体的場面に即して、1つもないことを「0」と表すことを理解している。
なんばんめ	図具体的な場面に即して、順序や位置を表すのに、数を用いようとしている。		図数を用いて、順序や位置を表現することができる。	図集合数と順序数の違いを理解している。
いくつといくつ	図活動に取り組もうとしている。	図1つの数を他の2つの数の和や差としてとらえている。 図10の構成を通して、10を多面的にとらえている。	図おはじきなどを用いて、5を2つの数で合成したり分解したりすることができる。 図10の合成・分解ができる。 図対応する2つの数の組み合わせで、10の数を表すことができる。	図5についての構成を理解している。 図6、7についての構成を理解している。 図8、9についての構成を理解している。 図10についての構成を理解している。
あわせていくつ ふえるといくつ	図日常の事象から2つの数量の合併の場面を見出し、加法の式で表し処理しようとしている。 図日常の事象から数量の増加の場面を見出し、加法の式で表し処理しようとしている。 図加法を用いる場面をとらえたり、ことばや式で表現したりしようとしている。	図式を2つの数量の合併の事象を簡潔に表したものととらえている。 図増加の事象を合併とともに加法の関係として統合的にとらえている。 図加法の場面を式に表したり、加法の式を読んだりすることを通して、加法の式の意味について考えている。 図これまでの加法の意味理解に基づいて、0を含む加法の式の意味をとらえている。	図合併や増加の場面をとらえ、加法の立式をすることができる。 図和が10以内の加法計算が確実にできる。	図和が10以内の加法計算のしかたを理解している。
のこりはいくつ ちがいはいくつ	図日常の事象から求残の場面を見出し、減法の式で表し処理しようとしている。 図日常の事象から求差の場面を見出し、減法の式で表し処理しようとしている。 図日常の事象から求差の場面を見出し、減法の式で表し処理しようとしている。	図式を求残の事象を簡潔に表したものととらえている。 図求補の場合も、求残とともに減法の関係として統合的にとらえている。 図これまでの減法の意味理解に基づいて、0を含む減法の式の意味をとらえている。 図減法の場面を式に表したり、減法の式を読んだりすることを通して、減法の式の意味について考えている。	図被減数が10以内の減法計算が確実にできる。 図求差の場合について、減法の式で表し処理することができる。	図被減数が10以内の減法計算のしかたを理解している。 図求差の場合も減法の式に表してよいことを理解している。
10よりおおいかず		図20までの数について、「10のままとまりと端数がいくつ」ととらえて、数え方を工夫して考えている。 図20までの数について、10のままとまりと1位数という構成をもとに表されていることを見出す。 図数の構成に着目して、10と1位数の加法や逆の減法の式に表すことを考えている。	図20までの数について、数詞を正しく唱え、数えることができる。 図20までの数を正しく読んだり書いたりすることができる。 図20までの数について、正しく数えることができる。 図20までの数について、数の構成に基づいて「10といくつ」に合成・分解ができる。	図10+3、13-3などの計算のしかたを理解している。 図直線上の目盛りで数を対応させると、数の大小や系列が正しくとらえられることを理解している。

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
ふえたり へつたり	日常生活の事象から数量の関係を読み取り、簡単な式に表そうとしている。 3口の数の減法の場面を1つの式に表そうとしている。	3口の数の加減混合計算について、既習の加法や減法の考え方を適用して、発展的にとらえている。	3口の数の加法の場面を1つの式に表し、その計算ができる。 3口の数の減法を1つの式に表し、その計算ができる。	3口の数の加減混合計算のしかたを理解している。
たしざん		繰り上がりのあるたし算のしかたについて、10のまとまりに着目して考えている。 被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して考えている。	加数分解による計算が確実にできる。 繰り上がりのある1位数どうしの加法計算が確実にできる。	加数分解による計算のしかたを理解している。 被加数が8、7の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。 被加数分解による計算のしかたを理解している。
ひきざん		繰り下がりのあるひき算のしかたについて、10のまとまりに着目して考えている。 減数の大きさに関係なく、10のまとまりから1位数をひくことに着目して考えている。	減加法による計算が確実にできる。 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。	減加法による計算のしかたを理解している。 減数が8、7、6の場合でも、10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解している。 減々法による計算のしかたを理解している。
20 より おおき いかず	10ずつまとめて数えるよさに気づき、ものの数を数えようとしている。 身の回りのものの数に興味をもち、数を数えようとしている。 仲間よくゲームに取り組み、正しくゲームを行おうとしている。	20までの数の数え方をもとに、20より大きい数の数え方について考えている。 位の数字に着目するなどして数表のきまりを考えている。	2位数を正しく書くことができる。 2桁の数のものを10ずつまとめて数えることができる。 2桁の数のものを正しく数えることができる。 2位数を、位取りに対応して10のまとまりの数と10未満の数の合成としてとらえることができる。 数直線上に正しく数を表すことができる。	位取り記数法は書く位置の違いを利用して表していることを理解している。 10が10個集まると100になることを理解している。 数直線を見て、数の系列、大小を理解している。
たしざんと ひきざん		順序数の加減計算の場合も集合数に置き換えて考えている。 異種の数量の場合も1対1対応によって同種の数量としてとらえている。		

領域（B）

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
どちら なが なが い	身の回りのものの長さに関心をもち、長さの比較に取り組もうとしている。 身の回りのものの長さを、それぞれに応じた単位を選択し、その数で比べようとしている。	間接比較について、媒介物を用いることで直接比較と統合的にとらえている。	ものの長さを、適切な任意単位を用いて表すことができる。	間接比較、間接比較のしかたを理解している。

領域（C）

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
かた あそ び	身の回りの立体図形の特徴や機能を生かして、いろいろなものを作ろうとしている。	図形以外の属性を抽象して、その形の特徴をとらえている。	身の回りのものの形について、その属性や特徴をとらえることができる。	いくつかの立体図形について、平面図形で構成されているものがあることを理解している。

6年 算数評価基準

領域 (A)

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
倍数と約数	①約数や倍数の性質を調べようとしている。 ②カレンダーの中にあるいろいろな倍数に興味を持つ。	①数直線から、倍数は規則的な間隔をおいて続き、限りなくあることをとらえている。 ②公倍数を求めるのに、大きい方の数の倍数をつくり、それを小さい方の数でわれば効率よく見つけられることに着目して考える。 ③数直線から、約数の個数は有限であることをとらえている。	①倍数を求めることができる。 ②約数を求めることができる。 ③公約数、最大公約数を求めることができる。	①倍数、公倍数の意味を理解している。 ②最小公倍数の意味を理解している。 ③約数、公約数の意味を理解している。 ④最大公約数の意味を理解している。
見積もり	①積の見当をつけてから計算すると誤りを防げるよさに気づき、積の見当をつけてから計算しようとしている。 ②商の見当をつけてから計算すると誤りを防げるよさに気づき、商の見当をつけてから計算しようとしている。	①積を見積もるとき、目的に応じてどの位までの概数にしたらよいか考える。 ②商を見積もるとき、目的に応じてどの位までの概数にしたらよいか考える。		
分数のたし算とひき算	①異分母分数の加法計算は、分母を等しくすれば同分母の計算に帰着できることに気づき、進んで計算のしかたを考えようとしている。 ②約分すると、分数の大きさがとらえやすいことに気づき、進んで約分しようとしている。	①分母の大きさに着目して、異分母分数の大小比較のしかたを考えている。	①大きさの等しい分数をつくることができる。 ②異分母分数の通分ができ、減法計算ができる。 ③約分することができる。 ④異分母分数の加減計算ができる。	①分数の分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても分数の大きさは変わらないことを理解している。 ②通分のしかたを理解している。 ③異分母分数の加減計算のしかたを理解している。
分数のかけ算とわり算	①計算の途中で約分できるときは、約分すると簡単にできることのよさに気づき、約分してから計算しようとしている。 ②いろいろな数の組み合わせを考えようとしている。 ③計算の途中で約分できるときは、約分すると簡単にできることのよさに気づき、約分してから計算しようとしている。	①分数×整数の計算を、単位分数のいくつぶんにとらえ整数の乗法に帰着して考えている。 ②分数の乗法の計算のしかたを筋道立てて説明できる。 ③分数÷整数の計算を単位分数のいくつぶんにとらえて整数の除法に帰着して考えている。 ④真分数×真分数の計算のしかたは、図を用いて既習の分数×整数、分数÷整数の計算をもとにして考えている。 ⑤既習の整数、小数の計算法則をもとにして分数の場合にも計算法則が成り立つことを説明できる。 ⑥数直線図や計算のきまりを用いて既習の分数×整数、分数÷整数の計算をもとにして、真分数÷真分数の計算のしかたを考えている。 ⑦わり算の性質を用いて、除法の計算のしかたを説明できる。	①分数×整数の計算ができる。 ②約分のある乗法計算ができる。 ③分数÷整数の計算ができる。 ④真分数×真分数の計算ができる。 ⑤途中で約分できる計算、整数×分数の計算ができる。 ⑥分数の乗法計算ができる。 ⑦真分数÷真分数の計算ができる。 ⑧整数÷分数の計算ができる。 ⑨3口の分数の乗除混合計算ができる。 ⑩分数の除法計算ができる。 ⑪時間を分数表示することができる。	①分数÷整数の計算のしかたを理解している。 ②数が分数の場合も、交換、結合、分配の法則が成り立つことを理解している。 ③計算の途中で約分すると簡単に処理できることを理解している。 ④3口の分数の乗除混合計算のしかたを理解している。
分数倍		①比較量、基準量が分数の場合も、図などを用いることによって整数倍に帰着して考えている。	①倍が分数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。	①倍が分数の場合も、比較量を求めるには、乗法を用いてよいことを理解している。

領域 (B)

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
単位量あたりの大きさ	関人口密度を調べようとしている。 関実際の時刻表などからいろいろな速さを求めようとしている。	関単位量あたりの考えを用いて、混み具合の比べ方を考えている。 関単位量あたりの考えを用いて、速さの比べ方を考えている。 関速さや道のりを求める公式を用いて時間の求め方を考えている。 関単位量あたりの考えを用いて、仕事の速さなどの比べ方を考えている。	関単位量あたりの考えを用いて比較することができる。 関人口密度を求めることができる。 関単位量あたりの大きさの考えを用いることができる。 関単位量あたりの考えを用いて全体の量を求めることができる。 関単位量あたりの考えを用いて問題が解ける。 関距離や時間をそろえて、それに対応する他の量の大きさを速さを比べることができる。 関速さを求める公式から速さを求めることができ、また、速さを時速、分速、秒速で表すことができる。 関道のりを求める公式から道のりを求めることができる。 関速さの問題が解ける。	関人口密度の意味を理解している。
体積	関身の回りのいろいろなものの体積に興味をもち、進んで比べようとしている。 関身の回りのいろいろなもののおよその体積を進んで調べようとしている。 関複雑な形のものの体積を工夫してはかろうとしている。	関面積と同じように単位の大さを決め、数値化して体積の比べ方を考えている。 関体積の公式の意味について説明できる。 関複合図形の体積を、分割したり補ったりして手際よく求めている。 関既習の単位関係の理解をもとにして、新しい単位関係について考えている。	関公式を使って、直方体、立方体の体積を求めることができる。 関辺の長さが小数でも、公式を適用して体積を求めることができる。 関具体物を紙形でとらえて直方体や立方体と見ることによって、およその体積を求めることができる。 関直方体、立方体の体積を求めることができる。	関直方体、立方体の体積の公式を理解している。 関直方体の高さを2倍、3倍、…にすると、体積も2倍、3倍、…になることを理解している。 関$1\text{ m}^3=1000000\text{ cm}^3$の関係を理解している。 関直方体、立方体の体積の求め方を理解している。
およその面積		関身の回りのものの形を、既習の基本図形の概形としてとらえ、面積の求め方を考えている。	関身の回りのもののおよその面積を求めることができる。	関身の回りのもののおよその面積の求め方を理解している。

領域 (C)

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
直方体と立方体	関箱の形に興味をもち、進んでその特徴を調べようとしている。 関進んで直方体、立方体の構成要素を調べようとしている。 関直方体が積み重ねられる理由を考えようとしている。 関身の回りのものの辺や面の平行、垂直の関係に関心をもち、調べようとしている。 関不思議な立方体に関心をもち、作ろうとしている。	関箱の形を、面の形に着目して直方体と立方体の2つの集合に分けてとらえている。 関見取図や展開図で表すことを通して、辺や面のつながりや位置関係をとらえている。	関直方体や立方体の展開図をかくことができる。 関直方体の互いに垂直、平行な辺、垂直な面と辺をとらえることができる。 関立方体の展開図をかき、不思議な立方体を作ることができる。	関直方体、立方体の特徴や性質を理解している。 関直方体や立方体の展開図は何種類もあることを理解している。 関直方体の面と面の垂直、平行の関係を理解している。 関立方体の性質を理解している。
立体を調べよう	関立体図形の構成要素に着目して、角柱や円柱の特徴を調べようとしている。 関身の回りから角柱や円柱の形をしたものを探そうとしている。	関構成要素に着目して、角柱の特徴をとらえている。	関円柱の性質を調べることができる。	関角柱の概念、角柱の底面、側面の性質を理解している。 関円柱の概念、円柱の底面、側面の性質を理解している。

領域 (D)

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
平均	日常生活の中で、進んで平均の考えを用いている。 平均を使っているいろいろなことを調べようとしている。		いろいろな場合について平均を求めることができる。 平均から全体の合計を求めることができる。 0を含む場合も平均の考えに基づいて平均を求めることができる。	平均の意味や求め方を理解している。 分離量の場合も平均の値は小数で表してよいことを理解している。 集団を代表する値として平均を用いると、他の集団と比較できることを理解している。
比	2つの数量の割合を、そのままの数値を用いて表せる比のよさに気づき、用いている。 できるだけ小さな比にしたほうが割合を比べやすいことに気づき、小さい整数の比になおして、等しい比を見つけようとしている。 身の回りのものの中から比に表せるものを見つけようとしている。		2量の割合から、同じ味のドレッシングを作るための分量を求めることができる。 等しい比を見つけることができる。 比の性質を用いて、比の一方の量を求めることができる。	等しい比の意味とその表し方を理解している。
比例	2量の変わり方に興味をもち、その関係を調べようとしている。 身の回りの中から比例の関係になっているものを探そうとしている。	比例する2量の関係について、多様な見方で調べている。 比例の関係に着目して、手際よく問題を解決できる。	伴って変わる2量の関係を、表を用いて調べることができる。 比例の関係を判定したりその性質を用いたりして、問題を解決することができる。 比例の関係をグラフに表して考察することができる。 比例の関係を判定することができる。	比例の意味を理解している。 比例の性質を理解している。 比例のグラフは原点を通る直線になることを理解している。